

1. 学校の教育目標

教育理念に基づき、職業に必要な知識を教授するとともに、職業人にふさわしい心を涵養し、地域社会の発展、向上に貢献できる人材を養成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1)教育(教職員として)の質の向上

(2)人間力の育成(演習・実践)

(3)目的に応じた地域力(地域の一員、地域の住人)の活用

3. 自己評価項目の達成及び取組状況

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

平成30年

(1) 教育理念・教育目標

	評価項目	自己評価
1	学校の教育理念・目的・育成人材像は明文化されているか。	4
2	学生・教職員に対して、学校の教育理念等の周知徹底が図られているか。	4
3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3
4	学校における職業教育の特色は明確になっているか。	4
5	学外(保護者含)に対して、学校の教育理念等が公開されているか。	3
取組と課題 今後の改善方策	教育理念を基に教育目標、運営理念・方針、重点目標を設定し、年度当初に会議等で全職員で徹底を図っている。その内容を学期ごと、会議毎に言葉で発して常に拠り所としている。しかし、保護者へのアプローチが弱く感じており、保護者会の強化等を図っていく。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己評価
1	学校の目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	3
4	理事会が定期的開催されているか。	4
5	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的開催されているか。	4
6	組織の構成員のそれぞれの職務分掌が文書化されているか。	4
7	人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4
8	賃金制度・昇進・昇格制度は文書化されているか。	4
9	個人情報保護規程が文書化されているか。	3
10	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4
11	教職員の健康診断がされているか。	4
12	教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	広く社会に有能な人材を育成することを学校の目的としている。毎年度、目的達成のためにさまざまな運営方針が策定されている。前年度踏襲の事業計画実行結果から改良を行っている。新規事業になかなか足を踏み出せないところも散見するが、初回時の振り返りを踏まえて、次回以降によりよいものに繋げていくことが肝要である。	

(3) 教育活動

	評価項目	自己評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確になされているか。	4
3	カリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5	業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4
6	産学連携によるインターンシップが体系的に位置づけられているか。	4
7	授業評価の実施・評価体制があるか。	4
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか。	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3
取組と課題 今後の改善方策	<p>総じて教育理念等に基づいたカリキュラムが策定されており、教職員も教育理念に基づいて授業等を行っている。また、カリキュラム編成委員からの指摘事項を踏まえた実践授業も取り入れている。教員の研修については2回実施したが、不十分な点が多いので今年度はより学生の成長に役に立つ視点に立った研修を計画性を持って行っていく。外部からの評価に関しては、インターンシップを計画的に行い、学生の評価も行ってもらっている。今年度は学校編成委員会とも連携をもってより実践的なカリキュラムを構築していく。</p>	

(4) 学修成果

	評価項目	自己評価
1	就職率の向上が図られているか。	4
2	資格取得率の向上が図られているか。	4
3	退学率の低減が図られているか。	4
4	卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	<p>就職率は100%を達成し、今まで就職実績のない企業への就職を果たした。開校以来の実績ときめ細かい指導によるものといえる。資格については難関試験である総合旅行業務取扱管理者に7名合格(学校合格率88%、全国合格率11%)と高い実績を残せた。今年度も引き続き資格取得率の向上に努めていく。退学者は前年度より対策は行っているがまだゼロではなく今後の課題である。卒業生に対しては学校同人誌等で情報を発信している。</p>	

## (5) 学生支援

	評価項目	自己評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4
2	学校案内等には育成人材像が明示されているか。	4
3	学校案内等には学費・教材費等が明示されているか。	4
4	学校案内等には選抜方法が明示されているか。	4
5	学校説明会等による情報提供は行われているか。	4
6	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか。	4
7	入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4
8	学生相談に関する体制(面談)は整備されているか。	4
9	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4
10	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4
11	学生の生活環境への支援は行われているか。	4
12	保護者と適切に連携しているか。	4
13	卒業生への支援体制はあるか。	4
14	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4
15	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	学校の教育目標である職業に必要な知識の教授については、きめ細かい指導を継続的に行っている。また、学生本人への指導のみならず保護者への連絡も保護者会、三者面談(学生、保護者、担任)等を通じ学生の進路について親身に相談・指導をしている。	

## (6) 教育環境

	評価項目	自己評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備して	4
3	防災に対する体制は整備されているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	什器備品・空調等が経年劣化で、傷んできている。LED照明や新規の空調機など、教育環境の充実に必要な設備は入替の時期に来ている。法令の避難訓練、消防設備点検、盛岡市主催のシェイクアウトなどで、防災設備整備と防災知識の啓蒙に務めている。	

(7) 学生募集

	評価項目	自己評価
1	高等学校等に対する情報提供等の取組を行っているか。	4
2	学生募集活動は、適正に行われているか。	4
3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられて	4
	取組と課題 今後の改善方策	高校訪問を中心に広報活動を行っているため、高校の先生方や高校生には情報を提供できていると感じるが、保護者や既卒の方にはまだ不十分と感じる。進路選択に間違いがないよう、今後はHPやSNSなどを今まで以上に活用し、本校の情報や活動について正確にそしてタイムリーに提供できるよう努めていく。

(8) 財務

	評価項目	自己評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3	財務について会計監査が妥当に行われているか。	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか。	4
	取組と課題 今後の改善方策	ここ数年の学生数の減少の影響で、流動資産を注視して、事業継承する必要がある。会計監査体制は、適宜行われている。情報公開は、ホームページで閲覧できるように取り組むを行う。

(9) 法令遵守

	評価項目	自己評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
4	自己評価結果を公開しているか。	3
	取組と課題 今後の改善方策	学生・保護者からのアンケートを元に、自己評価を行っている。さまざまなご意見を頂きます。本校に対する期待と捉えて、改善点を学生・保護者にとっての視点から改善する必要がある。

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己評価
1	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
2	社会的活動(地域活動・ボランティア等)を評価・単位認定しているか。	3
3	地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか。	3
取組と課題 今後の改善方策	学生のボランティア活動の支援は積極的に紹介を行っており、学生の参加も年を追うごとに参加は増えている。学校1学年主体のボランティアとしてはもりおか雪あかりボランティアに参加してる。社会的活動を評価・単位認定までは行ってないので今後の課題である。	

(11) 国際交流

	評価項目	自己評価
1	受入れ・派遣、在籍管理等について適切な手続き等がとられているか。	3
2	留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整備されている	3
3	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	初めての卒業生を輩出。就職希望者は本校のカリキュラムで学んでいるものと企業の求めるものが一致し、就職先からの内定及び就労ビザの取得をすることが出来た。進学希望者も大学合格を得ることができ、それぞれの学生の進路目標実現を果たした。今後は日本人学生との交流の機会を増やし互いの文化の理解と交流を深めていきたい。	

4. 本年度の総合的な自己評価結果と今後の課題

平成30年度の目標については、教育目標や計画については概ね達成できたものとする。特に地域貢献、ボランティア活動等には年を追うごとに参加者数は増加しており、当校が長年取り組んできたことが学生に浸透してきているといえる。ただし、いまだ達成できない課題もあり、今後は具体的に対策をたて、課題に取り組んでいきたい。